

施設の長寿命化の取組による事業効果

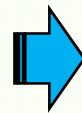
基幹農業水利施設ストックマネジメント事業の概要

農業水利施設の老朽化が進行する中、将来にわたって施設の機能を維持するため、施設の長寿命化とライフサイクルコスト※の低減を図りながら、施設機能の適正な保全管理を進めます。

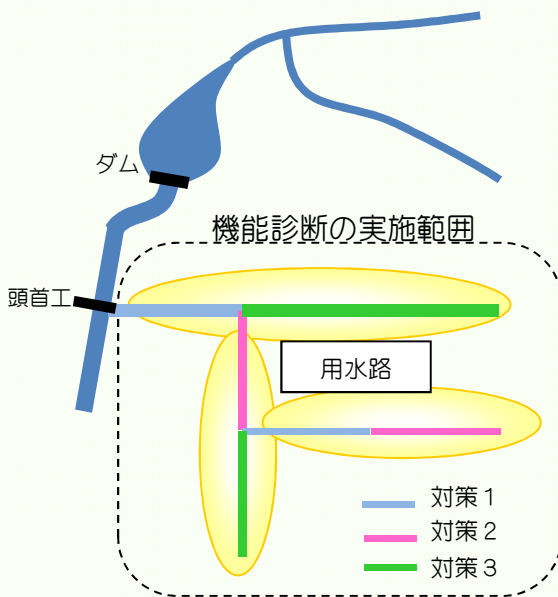
※ライフサイクルコスト：建設費に補修等の維持管理費及び廃棄に要する費用を合計した金額

●整備のイメージ

施設毎の機能診断を実施
(施設の機能の状態を調査し劣化度を判定)



劣化度に応じた対策を実施



【対策1】
健全な状態の用水路



監視しながらの継続使用

【対策2】

劣化した用水路



状態に応じて最適な補修・補強を実施

炭素シートで補強



表面被覆工



【対策3】

側壁が倒壊した用水路



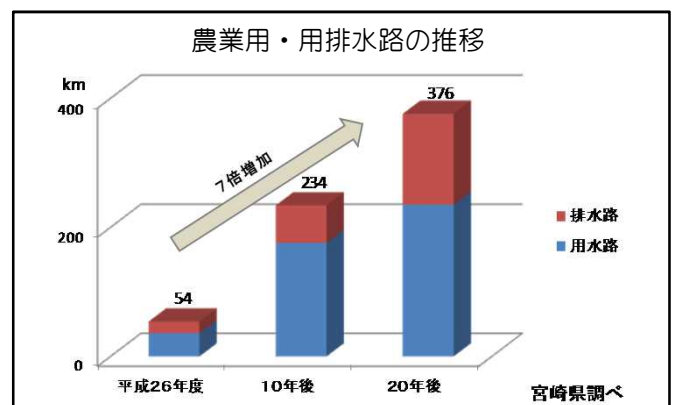
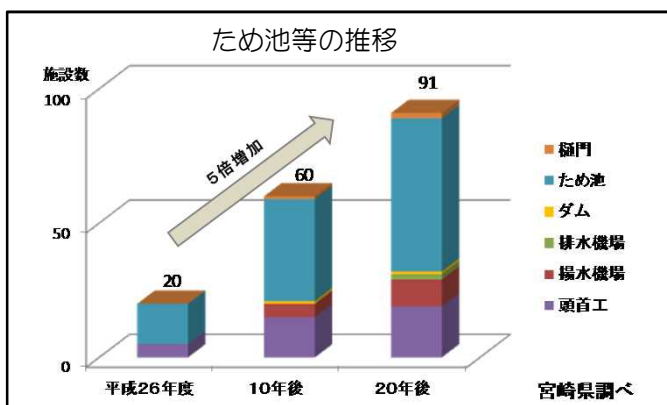
深刻な機能低下

↓
必要な部分から再建設

部分的に再建設



建設後50年経過する県営造成施設の推移



農業水利施設の突発事故

施設の劣化による事故が発生



パイプライン漏水による道路被災状況



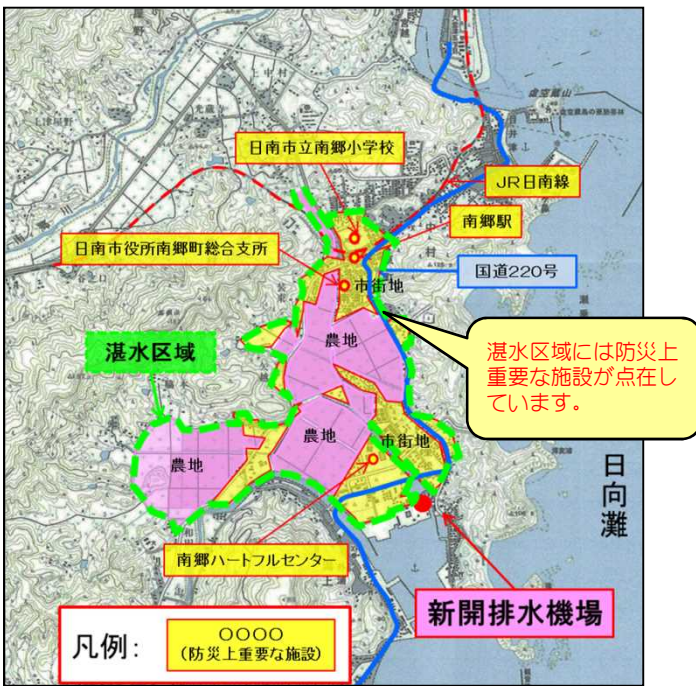
排水機場 原動機エンジンの加吸器焼き付け

施設機能を維持するための取組

<新開地区（日南市）の例>

効果

- ① 排水ポンプの寿命を **2倍に延命**（計画的な補修などを実施）
- ② ライフサイクルコストを約 **3割低減**（40年間の評価期間で算定）



整備後の排水ポンプ



整備後の移動式除塵機

対策工事を実施しなければ・・・

【排水ポンプの停止に伴い、市街地を含む約 **100ha**において、**浸水被害**が発生する恐れ】
長時間にわたり、農作物のほか公共交通機関や風水害時の緊急避難施設が影響を受けます。

昭和53年9月秋雨前線（日雨量130mm）

※写真は排水機場造成前の浸水状況

